施策マネジメントシート
（令和７年度目標達成度評価）

シート１　施策13：歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成

施策体系

基本方針	3	教育の健幸	施策名	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成

施策統括部	教育部	関係課	商工振興課
施策主管課	生涯学習課		

１　施策の評価指標

	成果指標	単位
A	学校への郷土学習実施校数	校
B	指定文化財件数	件
C		
D		

２　指標等の推移

成果指標		R4年度実績値	数値区分	６年度	７年度	８年度	９年度	評価	背景として考えられること
A	校	8	目標値	9	10	11	12	×	基本的に、小学校３年生の社会科「昔の道具とくらし」の学習で行われることが多く、中学校との関りが少ないのが現状です。今後は、学校と協議し、出前講座や展示物の貸し出しなどによる普及に努めます。
			実績値	9	9				
B	件	25	目標値	25	25	26	27	○	菊池恵楓園旧事務所本館　一棟が、国登録有形文化財（建設物）に登録されました。
			実績値	25	26				
C			目標値						
			実績値						
D			目標値						
			実績値						

※【評価】　○；目標達成　△；目標をほぼ達成（－5%）　×；目標を未達成

事務事業数・コスト				６年度	７年度	８年度	９年度
事務事業数			本数	5	5		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,102	1,534		
		都道府県支出金	千円	0	0		
		地方債	千円	0	0		
		繰入金	千円	0	0		
		その他	千円	120	129		
		一般財源	千円	11,898	11,063		
	事業費計		千円	13,120	12,726		

３　施策の現状・住民意見等

①施策の現状（第１期基本計画策定当初）と今後の状況変化

●歴史資料館の展示方法、来館者の増加促進など歴史資料館の充実が求められています。
●収蔵物の保管場所が不足しています。
●指定文化財の標柱、説明板等の老朽化による腐食や損傷が進み、分かりづらくなっています。
●保存・継承を行なう団体の後継者問題等により、伝統的郷土芸能の存続が危ぶまれています。
●所有者の高齢化や世代交代等により文化財への意識の希薄さが見られます。

②この施策に対して住民（対象者、納税者、関係者）、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における議会意見）
●歴史資料館については、年間計画を基に各学校やイベントへ出張展示を行うなど、利用促進の機会を創出すること。
●合志市の魅力を市外にも発信するために、歴史資料館をより充実させること。
●小中学校に郷土芸能部などを設置し、伝統芸能の後継者育成に取り組むこと。

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における総合政策審議会意見）
●伝統文化や歴史等を継承していくための仕組みづくりを行うこと。
●学校等と連携した郷土愛の醸成に向けた取り組みを行うこと。

４　施策の評価

①施策の振り返り（経営方針の達成度等）

令和７年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。
①【市指定文化財の掘り起こしや歴史・伝統文化の新たな価値付けのため調査・研究を進め既存の資料との紐づけを行うとともに、ふるさとカルタやデジタルアーカイブ等の活用など情報発信に努めます。】については、熊本県文化課の中九州横断道路建設に伴う竹迫城惣構え跡発掘調査現地説明会では、文化財保護委員や地域住民に参加を促し多数の参加者が見学できました。文化財保護委員とともに、熊本県が実施する「ふるさと熊本の樹木」を含めた樹木調査を新規に開始しました。また、合志市ふるさとカルタ札を巡るバスツアーを8地区のサロンなどを対象に実施しました。小学校と連携し、学校周辺の文化財を見学する出前講座を3回行いました。歴史資料館事業として、「ふるさと探訪まちめぐりバス」を7回開催し、132名が参加しました。

②【歴史資料館においては特別展の充実を図るとともに、図書館やマンガミュージアムと連携し3館の魅力向上に努めます】については、特別展「原田茂の遺したもの」展（見学者1103名）を開催しました。また、「子ども歴史科学体験教室」全9回（参加者892名）や資料館学習を13団体（593名）に実施することができ学習等の機会の提供に努めました。また、資料館内の故障していた竹迫城解説動画をタブレットで閲覧できるようにしました。その他、電子図書の郷土資料として民話「合志の昔話」（音声版）等を掲載しました。

③【人材不足等により活動が難しくなっている伝統行事について、地域学校協働活動を活用するなどの支援に努めます。】については、4月の竹迫初市が5年振りに総合センター「ヴィーブル」で開催され、歴史資料館も合同で「昭和100年写真展」展示を実施し、2,000人を超える見学者がありました。また、過去の祭り映像記録を保存したデジタル動画を資料館の学習に活用し伝統行事の啓発を行いました。

②施策の課題

●歴史資料館を中心とした文化財を活用するための仕組み作りが必要です。
●収蔵物の保管先の確保及び土器などを洗浄・接合するための整理作業室の設置が必要です。
●文化財資料のデジタル化など環境整備を行い、市民にわかりやすい情報発信が必要です。
●活動団体が主体的かつ持続可能な活動支援が必要です。
●文化財保護委員をはじめ、文化財の活用を担う人材の育成が必要です。
●開発の増加による竹迫城惣構え跡や市指定文化財の史跡を保護できるような対策が必要です。

５　施策の令和７年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項（令和８年7月13日まとめ）

●合志市歴史資料館の利用促進に向け、展示手法の工夫やデジタル発信の強化を図るとともに、多目的・多角的な施設利活用を検討し、市民が郷土の歴史に触れる機会を創出すること。
●次代を担う若年層の郷土愛を醸成するため、「ふるさとカルタ」や「マンガコンテンツ」、映像記録等の本市独自の資源を戦略的に活用し、歴史・文化に対する興味・関心を喚起する創意工夫ある取り組みを推進するとともに、後継者育成の支援を強化すること。
●図書館やマンガミュージアムとの横断的な連携を強化し、各施設の特色を掛け合わせた企画展示やイベントを展開することで、歴史資料館のさらなる魅力向上と来館者の回遊性向上を図ること。

②総合政策審議会での指摘事項（令和8年8月31日のまとめ）

●学校教育の中に、郷土学習を積極的に組み込むこと。
●子どもたちが歴史や伝統文化に興味を持ちやすいよう、媒体や手法を工夫すること。

③議会の行政評価における指摘事項（令和8年9月1日）

●歴史資料館については、小学校での学習利用が中心となっており、中学生をはじめ幅広い世代が地域の歴史や文化に触れる機会の充実が必要である。今後は、学校教育との連携をさらに進めるとともに、各学校への出張展示や出前講座、郷土芸能部の創設など、資料館以外でも市民が文化財や地域の歴史に触れる機会を増やし、郷土への関心や愛着につなげること。
●文化財を適切に保存・継承していくため、収蔵場所や資料整理を行う環境の確保、資料のデジタル化について計画的に進めること。
●伝統郷土芸能については、担い手の高齢化や後継者不足が課題となっていることから、活動団体への継続的な支援とともに、学校や地域、外部研究機関との連携を図り、子どもや若い世代が伝統文化に触れることで、次世代の担い手となる人財を確保すること。

６　次年度に向けた取り組み方針

○政策推進本部　令和９年度合志市経営方針（令和8年10月15日）

①本市の歴史・文化資源の保存と活用を進めるため、アナログ資料のデジタル化を計画的に推進するとともに、伝統芸能等の映像記録をクリエイター塾と連携して次世代に継承しやすい内容で整理・発信し、市民への周知を強化して郷土愛の醸成につなげます。
②令和9年度の「西南戦争150周年」を契機に、関連する未指定文化財（史跡）を調査し、その成果を特別展に活用し、文化財保護の重要性について市民への啓発を進めます。
③開発増加に伴う埋蔵文化財関連業務に対応するため体制を強化するとともに、老朽化した文化財収蔵庫について収蔵品の現状把握とリスト化・整理を進め、収蔵品の適切な保管体制の検討を図ります。